



理数アカデミー特別授業 ロボット教室

1月15日(日)に行われた、理数アカデミーの特別授業「ロボット教室」を紹介します。茨城工業高等専門学校(茨城工専)の生徒8名が講師になり、理数アカデミーの受講生24名が参加しました。茨城工専には、ロボット部という文化部が活動しています。最初に、部代表の埴啓輔君が学校紹介や部活動の様子などについて説明をしました。ロボット部の大きな目標は、全国高専ロボットコンテストに出場することだそうです。ロボコンに出場したロボットを持参し、その特色や操縦方法などについての説明があり、受講生たちは、3つのグループに分かれて、それぞれのロボットを実際に操作して、その仕組みや特色ある動きを体感していました。



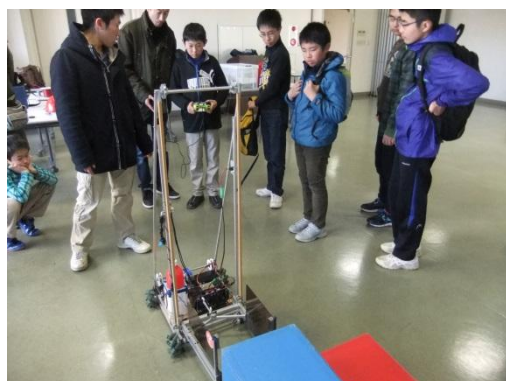
ロボコンに出場した「ヒバリン」



かなり大きな装置のロボット「ヒバリン」、前後左右に敏捷な動きをするロボット、小さいロボット「フォーク」は、物をすくいあげるロボットです。今年度のロボコンのテーマは「ロボット・ニューフロンティア」、新大陸開拓の証として「砦」を築くというもので、箱を持ち上げて積み上げるという内容です。吸引して持ち上げたり、両脇から挟んで持ち上げたりと、ロボットに仕込まれたアイデアが勝負の分かれ目になります。掃除機の原理を応用している吸引のシステムは、あっという間に箱を吸い上げていました。受講生たちは、初めて触る操縦装置を、見事にこなして箱を積み上げていきま

した。8名の中に、日立市出身の生徒(泉丘中)が1人いました。彼は中学校時代、日立の発明クラブに所属し、全国大会のロボットコンテストに出場した経験があるそうです。

受講生の年齢に近い生徒たちとの体験活動は、受講生たちにとって、とても新鮮で身近な存在ではなかったかと思います。理数アカデミー受講生の中から、ロボット工学などに進む生徒が出るかもしれません。保護者の方や日立理科クラブ関係者も含めて、楽しい活動の場になっていました。



ロボットの操縦を実演する高専生

